

3-2 学校の役割

学校は校長を責任者とし、アレルギー対応委員会を設置します。対応委員会では、アレルギー疾患を有する児童生徒に関する情報を把握し、学校での取組の検討や具体的な準備を実施することが不可欠です。

また、個別支援プランを作成し、全教職員と共通理解したうえで、緊急時の対応を実践できるようにすることも大切です。

学校での対応



（引用「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン《令和元年度改訂》」財）日本学校保健会）

学校の具体的な役割（例）

◆ アレルギー疾患を有する児童生徒の把握

- ・アレルギー疾患を有する児童生徒を把握し、必要に応じて、保護者と協議し、環境整備に努めるとともに、学校での対応が適切であるかの確認と対応の評価・改善を、アレルギー対応委員会を中心に行うようにする。

◆ アレルギー対応委員会の設置（役割）

- ・アレルギー疾患を有する児童生徒の健康状態を把握する。
- ・アレルギー疾患を有する児童生徒に対する取組を検討する。
- ・個別支援プランを作成する。

- ・全教職員との共通理解を図る。
- ・校内研修を実施する。
- ・アレルギーヒヤリハット・アレルギー事故があった場合、学校での対応が適切であったかの確認と対応の評価・改善を実施し、市町村教育委員会または県教育委員会へ報告する。
- ・定期的に学校での対応が適切であるかの確認と対応の評価・改善を実施する。

◆ 全教職員の共通理解と校内研修

【共通理解の事項及び研修内容（例）】

- ・アレルギー疾患の児童生徒の具体的な症状と発症時の対応
- ・緊急時の対応、緊急時のシミュレーション研修、教職員の役割の確認
- ・学校生活での活動の留意点
- ・緊急時処方薬（内服薬、吸入薬、エピペン等）の使用時の留意点
- ・エピペンを所持している児童生徒がいる場合、保管場所や使用手順、使用するタイミング

※「学校の動向 令和元年度版（公益財団法人 日本学校保健会）」P62－66』では、なんぶ小児科アレルギー科 院長 南部 光彦氏により奈良県での取組を紹介されています。

◆ アレルギーヒヤリハット・アレルギー事故への徹底

- ・学校でアレルギーヒヤリハットやアレルギー事故が生じた場合、学校は取組が不十分であると判断すれば、2度と起こらないように具体的な対応策を検討するとともに、教育委員会等からの指導を受けるようにしてください。